

福祉先進都市東京に向けた懇談会
高齢・障害・生活分野
平成26年11月6日(木)15:30～17:00

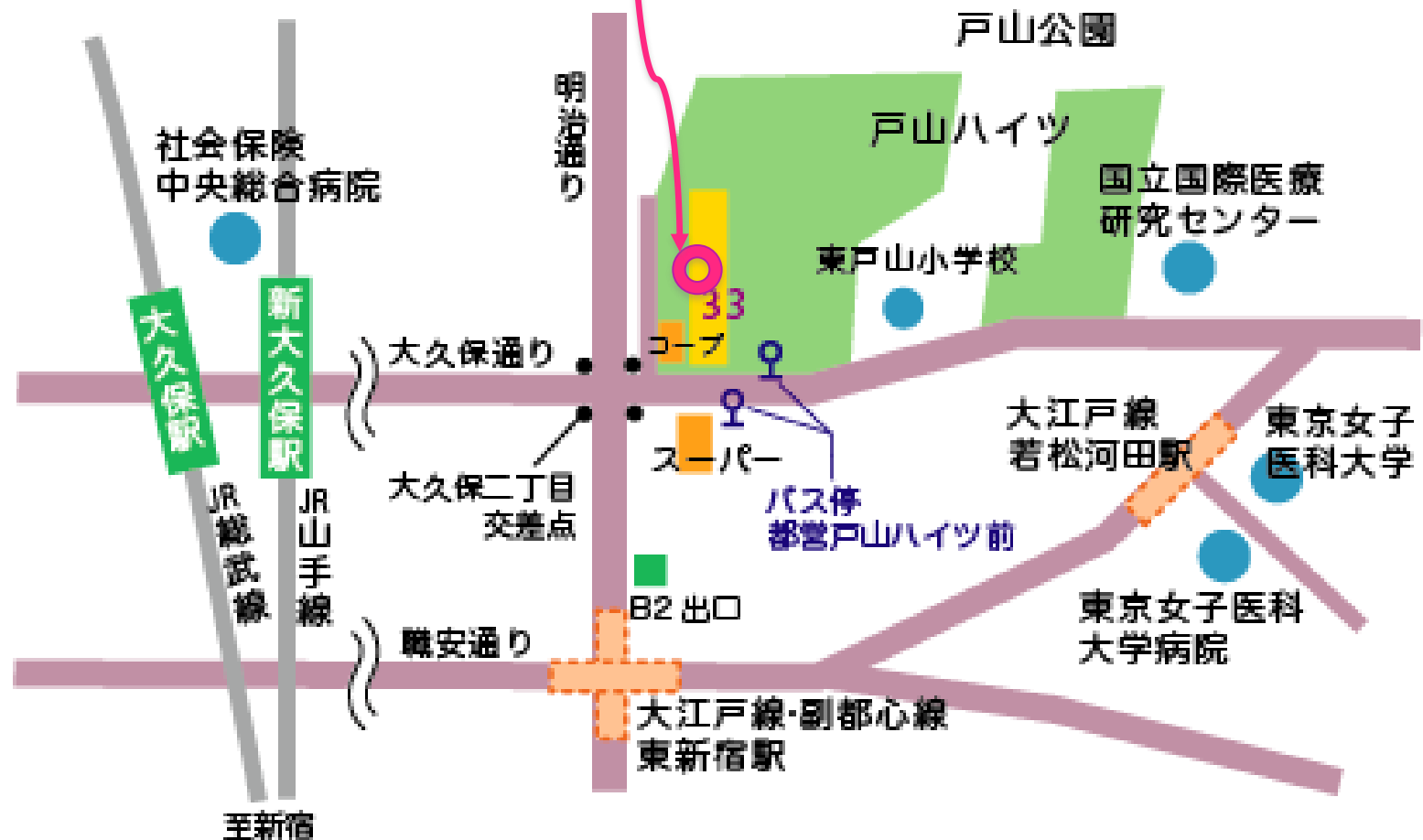
誰もが地域で安心して暮らすことのできる東京
暮らしの保健室から見たこれからの課題

(株)ケアーズ
白十字訪問看護ステーション 統括所長
暮らしの保健室 室長
秋山 正子

「暮らしの保健室」開設のきっかけ

- 訪問看護の実践の中で、もっと気軽に相談が出来る場所が地域の中にあつたらという思いが強くなった
- 団地の空き店舗を安く貸してくれる人が現れた
- 前々からマギーセンターのような相談支援の場所を地域の中に造りたいという夢の実現
- 在宅医療推進をめざし、そのため殊に連携推進の目的で、厚生労働省が平成23年度から始めた在宅医療連携拠点のモデルに選ばれた

暮らしの保健室



暮らしの保健室2011年7月1日オープン



メインルームにはテーブルを配置予定

マギーズ エジンバラの内部



..... maggie's tokyo project

HP : <http://maggiestokyo.org>

Facebook : <https://www.facebook.com/maggiestokyo>

Mail : info@maggiestokyo.org

Twitter : [@maggiestokyo](https://twitter.com/maggiestokyo)

Crowd funding :

<https://readyfor.jp/projects/maggiestokyo>

暮らしの保健室内部



時には子どもたちも・・・

相談事例で増えてきているもの

- 障害児が**障害者になり高齢化**し、さらに高齢化した家族の努力も限界
- 突然に放り出される自己決定支援が必要な生きづらさを抱える人々（セイフティネットの網からこぼれる）
誰が家族単位で捉えてサポートするのか？
- **認知症初期の高齢者単身者**を地域で支える仕組みの強化には、支え手を育てないと・・・インフォーマルサポートの育成・行政の支援・当事者の参加
- がん患者の相談の増加、病院の中では表現できない悩みの受け皿の必要性⇒

マギーズセンター日本第1号を東京に

困難を抱えた人を地縁の中で看取る

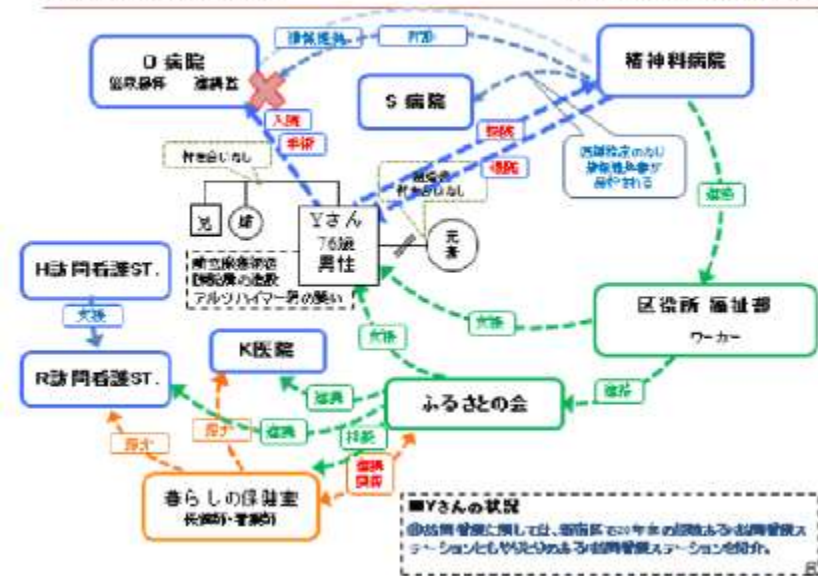
～血縁を超えた新たな地縁の結び方

■医療と介護の連携のための
「暮らしの保健室 ケース勉強会」より
月1回開催



本資料は勉強会終了後回収いたします

第28回暮らしの保健室勉強会事例①



予防に力点を置く医療と介護の連携

- 高齢者ことに後期高齢者の中で80歳を超える人々の生活ニーズは、医療的なニーズも合わせて、予測を持って見通すことが必要
(新宿区では85歳以上になると6割が要介護)
- 医療・介護ニーズを重度化させないための予防は「生活を支える視点をもった」医療者の
早めの介入が必要 ⇒ システムの工夫
- 東京都のがん医療は他県からのニーズにも
対応 ⇒ 予防から看取りまでの継続性が？

都心での働き手の確保

- 福祉先進都市東京を実現させるために、福祉人材の確保は重要課題
- 働き手は他県から通勤
- 都心に住みながら通える職場環境は出来ないか？ 保育の充実は必須！
- 都営住宅の空き家の調査及び活用の工夫で、若い福祉人材の確保にも好影響を期待
- 都心部の空き家の活用で、小規模多機能施設などの推進を！

元気な高齢者の生きがいづくり につながる 地域ボランティアの育成と活用



住み続けて良かったと思える東京に

- 予防に力点を置きつつ、生活している場所での看取りまで担える都市。
- 在宅医療の充実で、地域差はあるが逆に実現出来始めたところはある。
- 住んでいてよかった東京、語り継げる看取りの物語。大病院での死に方とは違った人情味あふれる看取り方を、福祉先進都市として実現することはもうすぐ来る多死の時代の先進事例となる。
(一人暮らしでも支えられる地域に)